

麗気烈風

令和3年8月26日(木)

文責 村田和人

～ 教育は「共育」「協育」「強育」で ～

～【一人一人が目標を持って】～

1学期の終業式で、「2学期の始業式には元気でみんなこの体育館に揃うように。」とお願いしました。夏休み中、大きな事故もケガも病気もなく、無事に始業式を迎えることができるかな、と思っていた矢先、熊本市教委から分散登校、オンライン授業の実施の指示がありました。それ以来、鹿南中では先生方のチームワークによって2学期の準備は早々に整いましたが、全学年一堂に会して2学期のスタートを迎えることは叶いませんでした。



人生、上り坂、下り坂、まさかの3つの坂があるといいますが、その「まさか」がこの時期に起きるとはまさか思っていませんでした。

中体連も終わり、暑さも峠を越し、いろいろな行事に向けて取り組む中でクラスの結束が増し、学校生活が最も充実し、楽しさが最高潮に達するのが2学期です。ところがコロナウィルス・デルタ株の感染拡大によって、2学期もどのような状態になるのか、全く不透明になってきました。子ども達の安心安全を最優先事項とし、その結果、学校の年間計画や諸行事等、大幅に変更する必要が出てくるかもしれません。

まだまだコロナ前の暮らしに戻ることはできそうにない気配です。しかし中学校時代というかけがえのない時間は容赦なく通り過ぎていきます。学校任せにならず、子ども達一人一人が目的意識をしっかりと持って学校生活を送ろうとする意識、意欲がこれまで以上に必要とされるようです。生徒の皆さん、2学期も共に頑張りましょう。保護者の皆様、子ども達をしっかり支えてあげてください。よろしくお願いします。

～【鹿南中が問われる時です】～

分散・オンライン授業の実施等について詳しくは学年や学級通信によって連絡がありますのでここでは触れません。もっともっと根本的なこと、鹿南中生としてではなく、人としてこうした事態をどう受けとめ、どう行動していくべきかを書いていきたいと思います。

人は個人、友達、家族、学級、学年、そして学校とどのような集団でも、いざ、となった場合にその真実の姿が顔を出します。

いつも仲の良かった友達でも、一人が高校入試

に合格し、もう一人は残念な結果になった場合に、それまでの友情関係とは一体何だったの、と言いたくなるように互いの態度が豹変したグループもありました。

今、私が心配しているのは、そんなレベルの内容ではありません。

一説によるとデルタ株というやつはこれまでのウィルスよりも強い感染力を持っているということで、そのせいか熊本市でもこれまでにないスピードで感染が広がっています。

いずれ、鹿南中の関係者、つまり生徒、保護者、職員も感染する時が来るでしょう。それはそれで不可抗力です。誰も好んで感染する人なんていません。問題は、そんな事態になった時に鹿南中がどのような集団になるか、です。

ある人物が新型コロナウイルスの陽性反応を示した。さあ大変だ、うつったら重症になる、そうだみんなに LINE で教えてあげよう、とあつという間に情報が広まり、不幸にも感染してしまった人物を「村八分」状態にする。

それか、その人物が安心して治療に専念し、治癒したら元気に登校できるように、LINE で励ましの言葉を送ったり、授業のノートをとってくれたり、いろいろな気配り、心配りをもって、包み込んでくれる集団になるか。

前者のような集団は文化水準の低い集団です。感覚的、直感的にしか判断できない人達の集団です。鹿南中がそんな集団であってはなりません。正しい情報を元に、冷静に判断し、思いやりを持って行動する。それが文化水準の高い集団だと私は思います。鹿南中はそんな集団であってほしいと思います。

要は、もし自分や自分の家族が新型コロナウイルスに感染してしまったら、周囲の人達にはどうしてほしいかをしっかり考え、友達が感染してしまったらそのように行動してほしいのです。ただそれだけです。

されて嫌なことは決して人にもしない。されて嬉しいことは進んで人にもしてあげる。書けば簡単なことですが、目配り、気配り、心配りができて、なおかつ心にゆとりのある人しかできないことのように思います。人にやさしくするということは、実はとてもむずかしいことなのです。「鹿南健児」③「人の痛みを自分の事として考える事のできる生徒」、実践の時がきました。

